

Farm to Table / 地域の多世代チームで作る農園から食卓まで

こども

工芸

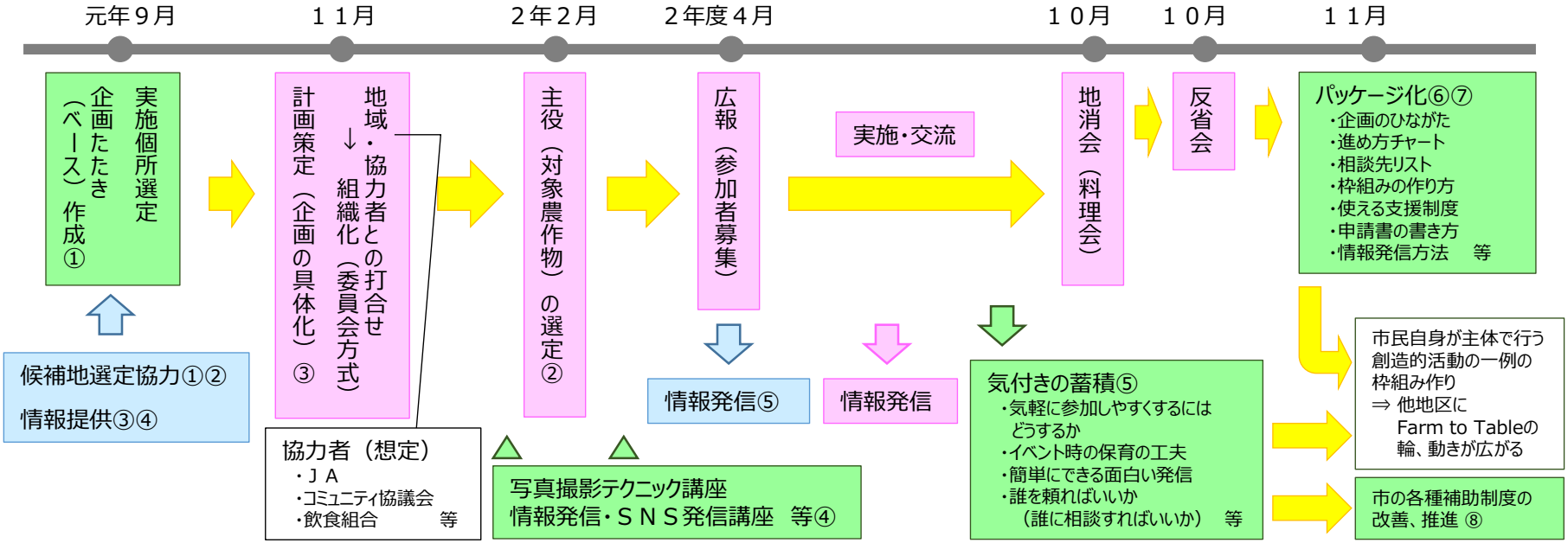
食

交流

【目的・概要】 地元に根付く食文化を軸に、世代間や地域社会の交流を活発化させるため、栽培から地消までに関わる事業をモデルケースとして、市の事業制度をチェックする。

【期間】 令和元年度
～ 令和2年11月

【スケジュール(例)】 緑：U-40、ピンク：地元・U-40、青：市 (※丸囲み数字は、下の【U-40がすること】、【市に協力してほしいこと】に対応)



【U-40がすること】

- ①事業の企画、②地域資源の掘り起こし、③協働での運営、④テクニック等の伝授、⑤ノウハウ等の収集、⑥ノウハウまとめ・事業のパッケージ化、⑦地域で事業を実施しやすい枠組み作り、⑧市の各種補助制度等の改善、推進 (市制度への気付きのフィードバック)

【市に協力してほしいこと】

- ①モデル地区の選定協力、②モデル地域の核となる団体(コミュニティ協議会等)や関連団体の紹介・仲介、③利用可能制度の情報提供、④市制度利用方法のアドバイス、⑤(必要に応じ)可能な範囲での広報

【関連する市施策・事業】

- 高松市農産物ごじまん品の推進
- 地域活動の推進
- 食育の推進

【活用する市制度】

- 「高松産ごじまん品」食農教育活動支援事業 (50千円以内 ×1箇所/1団体・年)
- 地域活動支援(仮)
- イベント時保育支援(仮)

【市へのフィードバック】

- 地域別「ごじまん品」の掘り起こし
- 支援(補助)制度の使い勝手の評価 ⇒ 高評価点 問題点と改善案

【本事業の評価視点】

- 世代間や地域、近所の交流、関係性が生まれたか
- 地域の農・食文化への認識、理解が進んだか
- 食卓に上がるようになったか ⇒ 地域に見る創造都市の実例

【想定するゴール】

- 実施後、地域自身の手で活動が継続される
- 他地域に水平展開される
- 地域毎の特色ある事業が行われる
- 効果的な市制度の構築